政策　05　産業に関する政策

施策　02　農業の振興

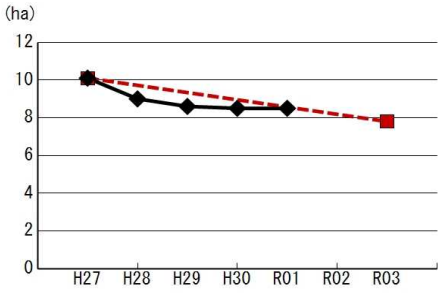
あるべき姿

農業としての作付面積や生産規模を維持し、安定経営・付加価値化で農業所得が増加します。

■施策の成果状況と評価

指標①　耕作放棄地面積（ha）　【農業委員会事務局】

基準値(H27)	実績値(H30)	実績値(R01)	目標値(R03)	対基準値
10.1	8.5	8.5	7.8	(向上)



対前年度：(横ばい)　目標達成度：(中)

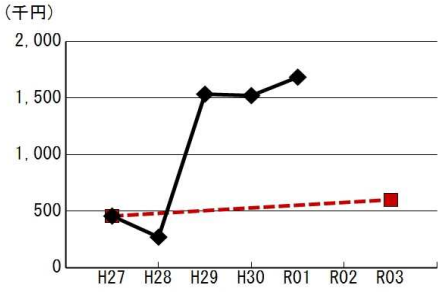
評価

（状況）耕作放棄地の面積は基準値(10.1ha)と比較して、1.6ha減少しました。

（要因）農地中間管理事業を活用して担い手農家への利用集積を推進している他、農地パトロールにより耕作放棄地を調査し農地所有者へ指導していることが挙げられます。農地中間管理事業を活用する地域を増やすなど担い手農家への集積を推進すると共に、農地パトロールを継続して行い、耕作放棄地の減少に努めます。

指標②　農業法人税割額（千円）　【農政課】

基準値(H27)	実績値(H30)	実績値(R01)	目標値(R03)	対基準値
456	1,520	1,683	600	(向上)



対前年度：(向上)　目標達成度：(達成)

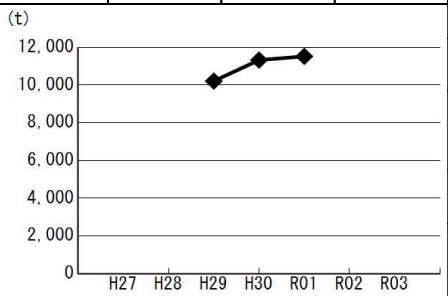
評価

（状況）農業法人における法人税割額は、基準値(456千円)と比較して、1,227千円増加しました。

（要因）農業法人全体が好業績だったことが挙げられます。安定経営のための手法の一つとして、家族経営から法人化に向けたPRを行うほか、農地中間管理事業の推進などを通じ担い手への農地集積を支援し、農業法人数の増加に努め、農業法人税割額の向上を図ります。

指標③　農産物収穫量（米、麦、大豆）（t）　【農政課】

基準値(H27)	実績値(H30)	実績値(R01)	目標値(R03)	対基準値
	11,324	11,518		(向上)



対前年度：(向上)　目標達成度：(達成)

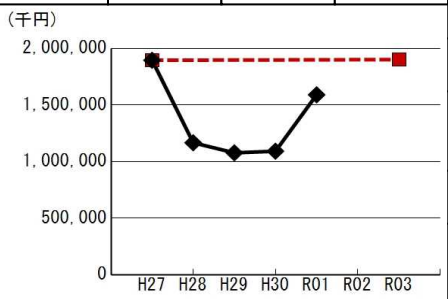
評価

（状況）農産物収穫量は、基準値（米9,980t、麦1,280t、大豆55t）と比較して、203t増加（米40t減少、麦270t増加、大豆27t減少）しました。

（要因）農業従事者の高齢化や後継者不足による離農、都市化による農地減少などの状況下で、担い手への利用集積が進み、生産の維持向上が図られたことが挙げられます。

指標④　花き出荷額（千円）　【農政課】

基準値(H27)	実績値(H30)	実績値(R01)	目標値(R03)	対基準値
1,894,352	1,091,016	1,588,917	1,900,000	(低下)



対前年度：(向上)　目標達成度：(低)

評価

（状況）花き出荷額は、基準値(1,894,352千円)と比較して、305,435千円減少しました。

（要因）市場の単価が下がった他、流通ルートの多様化により、出荷形態が変化したことが挙げられます。今後は、研修会等の機会を通して高付加価値の花苗等の栽培を推進するなど、出荷額の向上に繋がるよう支援していきます。

■基本事業の成果状況と評価

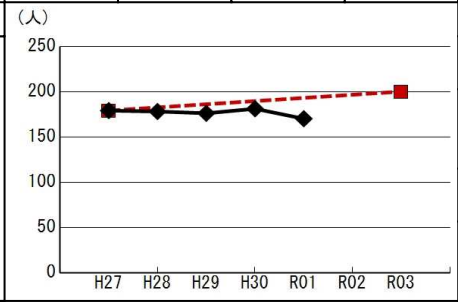
基本事業01　担い手確保と農業経営継続への支援

指標	基準値(H27)	実績値(H30)	実績値(R01)	目標値(R03)	対基準値
認定農業者数（人）【農政課】	179	181	170	200	(低下)

評価

（状況）認定農業者数は、基準値(179人)と比較して、9人減少しました。

（要因）農業従事者の高齢化や後継者不足による離農が進んでいることが挙げられます。規模拡大を目指す農家を農地中間管理事業等より支援することで、新たな認定農業者も増えておりますが、それ以上に離農を原因とする減少が上回ったものと考えられます。



対前年度：(低下)
目標達成度：(中)

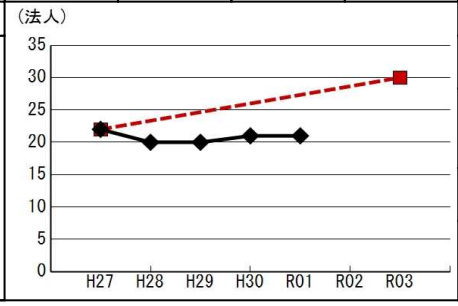
基本事業01　担い手確保と農業経営継続への支援

指標	基準値(H27)	実績値(H30)	実績値(R01)	目標値(R03)	対基準値
農地所有適格法人数（法人）【農政課】	22	21	21	30	(横ばい)

評価

（状況）農地所有適格法人数は、基準値(22法人)と比較して、１法人減少しました。

（要因）事業撤退により、法人が解散したことが挙げられます。今後は、安定経営のための手法の一つとして、家族経営から法人化に向けたPRを行うほか、農地中間管理事業の推進などを通じ担い手への農地集積を図り、農業生産法人数の増加に努めます。



対前年度：(横ばい)
目標達成度：(低)

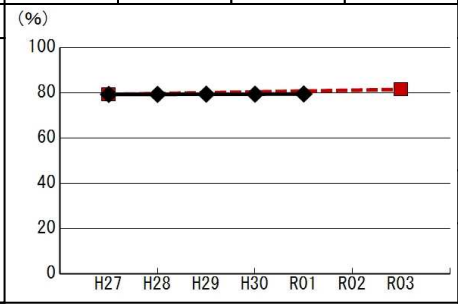
基本事業02　生産基盤の整備

指標	基準値(H27)	実績値(H30)	実績値(R01)	目標値(R03)	対基準値
かんがい排水路整備率（%）【農政課】	79.2	79.3	79.4	81.4	(横ばい)

評価

（状況）かんがい排水路整備率は、基準値(79.2%)と比較して、0.2ポイント向上し、前年度値（79.3%）と比較しても0.1ポイント向上しましたが、上昇は緩慢な状態です。

（要因）施設の老朽化に伴う補修工事の要望が大半を占め、未整備の水路改修が進まず整備率上昇につながっていないことが挙げられます。今後も引き続き、生産基盤の整備と維持管理に努めていきます。



対前年度：(横ばい)
目標達成度：(低)

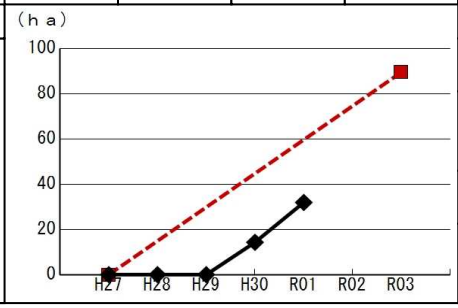
基本事業02　生産基盤の整備

指標	基準値(H27)	実績値(H30)	実績値(R01)	目標値(R03)	対基準値
新たに圃場整備された面積（基本計画期間累計）（ｈａ）【農政課】	0	14.3	31.9	89.4	(向上)

評価

（状況）圃場整備された面積は、基準値(14.3ha）と比較して、7.6ha増加しました。

（要因）令和元年度に鴻巣行田圃場整備事業が順調に施工されたことが挙げられます。今後も、計画の通りに事業が推進できるように支援を行い、新たな圃場整備を推進していきます。



対前年度：(向上)
目標達成度：(低)

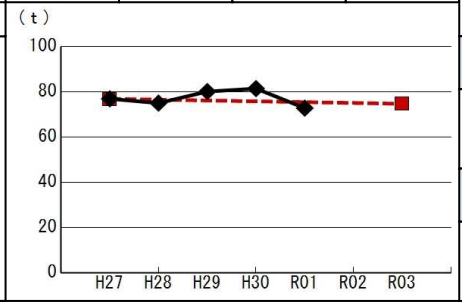
基本事業03　地産地消の推進と競争力の強化

指標	基準値(H27)	実績値(H30)	実績値(R01)	目標値(R03)	対基準値
学校給食における米の消費量（ｔ）【農政課】	76.8	81.3	72.7	74.6	(低下)

評価

（状況）学校給食における米の消費量は、基準値(76.8t)と比較して、4.1ｔ減少しました。

（要因）少子化により児童・生徒数は減少していながらも、地元農産物の利用が定着してきており、基準値を満たす見込みであったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、給食提供回数が減少したことが挙げられます。



対前年度：(低下)

目標達成度：(中)

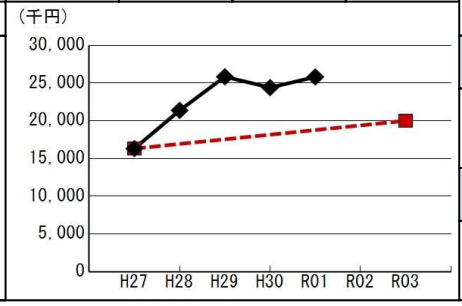
基本事業03　地産地消の推進と競争力の強化

指標	基準値(H27)	実績値(H30)	実績値(R01)	目標値(R03)	対基準値
農産物直売所の販売高（千円）【農政課】	16,310	24,399	25,805	20,000	(向上)

評価

（状況）農産物直売所の販売高は、基準値(16,310千円)と比較して、9,495千円増加しました。

（要因）食の安心・安全に対する消費者の意識は高く、作り手の顔がわかる、地元で生産された農産物が好まる傾向にあることが挙げられます。また、直売所等では、「作り手の顔が見える表示」をするなど工夫がされています。今後もイベント等でのPRを始め、学校給食での利用促進を図ることによる保護者への周知を進め、地産地消の推進を図ります。



対前年度：(向上)

目標達成度：(達成)

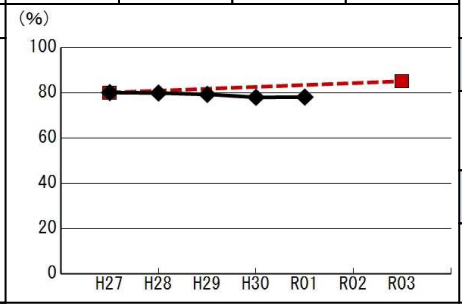
基本事業03　地産地消の推進と競争力の強化

指標	基準値(H27)	実績値(H30)	実績値(R01)	目標値(R03)	対基準値
鴻巣市産の農産物や花を、市内店舗や直売所で購入している市民の割合（%）【農政課】	80.0	77.9	78.0	85.0	(低下)

評価

（状況）鴻巣市産の農産物や花を、市内店舗や直売所で購入している市民の割合は、基準値(80.0%)と比較して、2.0ポイント減少しました。

（要因）食の安心・安全に対する消費者の意識は高く、地元で生産された農産物が好まれている傾向がありますが、まだまだ市内産農産物を購入できる直売所や販売スペースが少ないことが挙げられます。



対前年度：(向上)

目標達成度：(中)